

教育舞踊における

運動主題記譜法の応用 (II)

— 舞踊の運動技能的表現要素の構造化・
系統化とその記号的応用について —

堀野 三郎

〔研究目的〕

本研究の目的は、次の三点である。

- I. 教育舞踊の運動技能的表現要素を個別的に比較検討し、用語概念の妥当性を吟味し、構造化し、その精選の要素を記号化すること。
- II. 我国の現制度下での教育舞踊の目標・内容を運動技能的発展と学習者の年令の発達段階との観点を中心として検討し、系統化し、実践可能な範囲で記号化すること。
- III. 現制度下で実践可能な運動主題記譜法記号を中心とした具体的応用例を見出すこと。
本論では、以上の三点のうち、主として第II目的について検討した。

〔研究方法〕

- 文献資料による比較検討 —— 19著書10資料
(詳細は学会資料〈No.1・2〉を参照。)

〔結果と考察〕

I. 第I目的について

この中心的課題は、「舞踊の運動技能的表現要素の構造化と記号化」「その構造化内での精選の要素の抽出と記号化」「エフォートの用語比較」などである。以下、各課題の特徴的事項を述べる。

1. 「舞踊の運動技能的表現要素の構造化と記号化」
本論では、「舞踊創造の構造(運動的全体構造と分脈)」として試案を作成した。〈図I省略〉
2. 「本案の構造化内での精選の要素の抽出と記号化」
(1) 本論では、「舞踊運動の效果的表現の要因とその記号化」として試案を作成した(学会資料〈図表I〉を参照)。

図表 I. 「動きの效果的表現の要因とその記号化」(例) —— 堀野 (1975, '76)

1. 強・弱		5. 全身(部位)		9. 断続・連続		〔4作品, 6動きの調査例〕 N=454名(2,296例) 大2女 132名 高2女 236名 中2女 86名 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">P<0.02 ~0.05</div>
2. 速・遅		6. 極大・極小		10. 空間移動		
3. 大・小		7. 非相稱・相稱		11. 向 き		
4. 直・曲		8. 高・低		12. 漸次・急激		

〔註〕*印は LAB. (完全譜記号)

(2) これは、「表現運動の要素の実証的精選化」を意図して、4舞踊作品と6舞踊運動とのVTRテープによる観照を計454名の中学・高校・大学生を対象に行わせ、そのアンケート調査による反応結果をコンピュータ処理により有意差検定を中心に抽出したところの小論資料、即ち、主に対比的な12組の效果的表現運動の要因項目に対して記号化を行ったものである。

M,W記号(運動主題記譜法記号)では、均衡概念の非相稱・相稱と空間移動に関わる空間的向きの2項目を除き総て記号化し得る。ただし、本案ではより簡易化の観点から、その他の2項目についてもLAB.記号(完全記譜法記号)を援用した。

3. 「エフォートの用語比較」に関しては、紙面の都合上省略(学会資料No.4を参照)。

II. 第II目的について

この中心的課題は、「我国の現制度下での教育舞踊の学習内容に対して年令・技能的対応を伴った系統化とその記号化」であり、その前提として「現在の指導要領関係書の系統的要約と、その比較資料として有意な他国の実践システムとの照合」と更に第I目的で得た有意の知見を導入しての検討が必要である。前者に関しては松永敬子「主要資料の学習内容の比較と検討結果」(学会資料No.5・6の左欄を参照)を援用し、本文〈図表II・III〉の如き試案を作成した。以下省略。

以上、本論は、舞踊の運動技能的表現要素の構造化、教育舞踊の学習内容の系統化・精選化とM.W記号を中心とした記号適応度の把握や記号の簡易化などについて、小学校、中学校での教育舞踊活動の範囲で検討し、試案を作成した。

今後、これらの方法論的妥当性や各課題・題材・要因など設定項目の妥当性について衆知を集めて再検討し、実証的な成果を加味し、改良累積していく必要がある。

図表Ⅲ。「教育舞踊の学習内容の系統化・記号化」(その2)

— 小学校高学年・中学校 —

比較 年令	表現内容	表現運動の要素(1) (特に表現内容との関連性で)	表現運動の要素(2) (その記号化, 初出のもののみ)	同要素(3) (精選化)
10 11 オ 小 5 11 12 オ 小 6	<p>Ⅶ. <表現的力性動作の感じ> ④⑤⑥⑦⑧ 「突く」 (もり(槍)①, ボクシング, フラッシュ・ ライト etc. 軽いノック, 手裏剣②, タイピスト etc. 「押す」 (すもう, 荷車③海底隆起 etc. 注射器④霜柱, 発芽 etc. 「振る」 (すりこぎ, ホール・キック⑤ハンマー シェイカー, ディスコ・ダンス, etc. 土ふるい⑥ etc. 「曲げる」 (固いネジ蓋, 石臼⑦樹の根 etc. 液体注入, 針金細工, 宇宙遊泳⑧ etc. Ⅷ. <激しい感じ> ④⑤⑥「激痛」「雷雨」「荒海」「ダムの決壊」 etc. Ⅸ. <ゆっくりした感じ> ④⑤⑥「つたの繁殖」「発芽・生長・開花・ 枯死」「スロー・モーションの決斗④」 「腐蝕」「結氷」 etc. Ⅹ. <既存の芸術・芸能の感じ> ⑦「そうらん節①」「オールドプラスワゴン」 ⑧「祭みこし・ばやし・太鼓」 ⑨「ジャズ・ダンス⑩」 など。</p>	<p>① 独舞, 2人組, 5~6人組, 群舞 全身・部位 ② 向き(身体へ, 空間へ①) <位置> 床(舞台)位置② 前・後・右・左 中心・斜・末端 相手との位置③ 相手との関連④ ⑦ 基礎的エフォート動作⑤ バン } と「突く」ズー } と バン } 「押す」スー } と ピシ } と「振る」ギュー } と ピシ } キュー } と 「曲げる」 断続・連続⑥ 制御的・解放的⑦ ⑧ 強調⑧(力・空間・時間的), 持続 均衡(ア・シメトリー⑨シメト リー), 均整⑩</p>	<p>Hand-drawn diagrams and symbols representing movement elements like direction, position, and effort.</p>	<p>Selected symbols and diagrams from the previous column.</p>
12 13 オ 中 1 13 14 オ 中 2 14 15 オ 中 3	<p>Ⅰ. <硬い柔かい感じ> ④⑤⑥「早春の蕾①」「るつぼ②」 「雪解け」 etc. Ⅱ. <楽しく軽やかな感じ> ④⑤⑥「花に舞う蝶」「おしゃべり」③ etc. Ⅲ. <対立する感じ> ④⑤⑥「いさかい」「生存競争④」「葛藤⑤」 etc. Ⅳ. <次元的面の感じ> 「テーブル面⑥」 (さると目の前のえき; 各部位, 中・低位での空間構成 etc. 「ドア面⑦」 (さると樹の上のパナナ; 全身, 高位での拳上組み型 etc. 「車輪面⑧」 (さると日向ぼっことノミ取り; 全身, 低位での積み重なり型 etc. 「3平面の結合⑨」 動きの構成; 「出合いと別れ」 etc. Ⅴ. <既存の芸術・芸能の感じ> ⑦「ナポレオン」「ドードレアスカポルカ」 「マイムマイム」「ジングルベル⑩」 etc. ⑧「オリエンタル・ダンス⑪」 「郷土芸能」 など。</p>	<p>① 4~6人組, 4~8人組 全身・部位 ② 面 { 水平面(テーブル)① 側方面(ドア)② 前後面(車輪)③ <空間移動型>一踊跡 1. 直線④ { 直線 折線 図形 2. 曲線⑤ { 弧・円 ねじれ(ゆがみ) 図形 3. 不定形 <身体の形> { 細長, ひろがった { 円い, ねじれた etc. <隊形> { 密集(線, 円, 方, 不定) { 分散 ⑧ 3拍子 短フレーズ→長フレーズ→ 小作品→群舞作品 <その他> ● 既習要素の補習と発展。 ● 様式性・形式性の導入など。</p>	<p>Hand-drawn diagrams and symbols representing movement elements like planes, lines, and shapes.</p>	<p>Selected symbols and diagrams from the previous column.</p>